

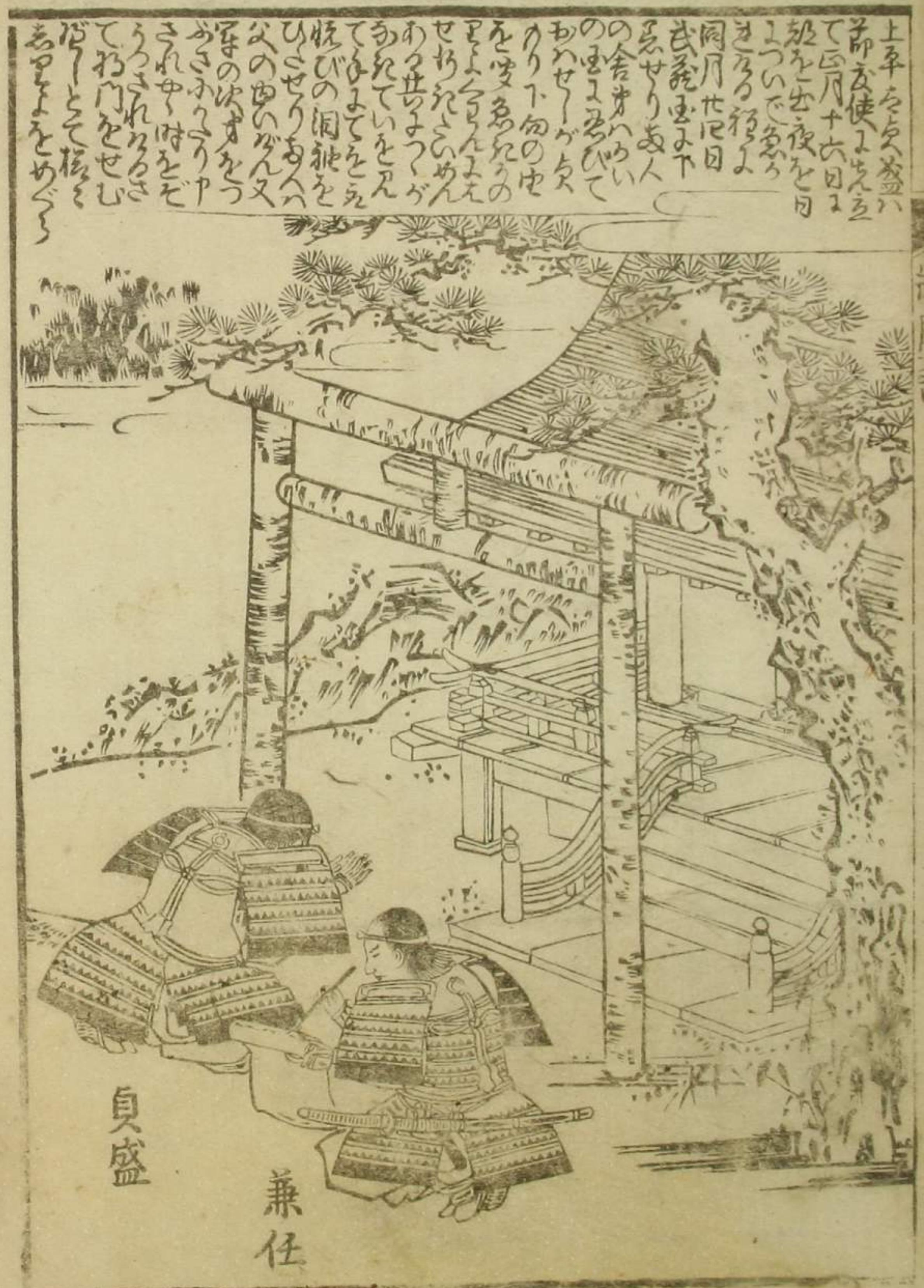


15
15641
4
(43)



本居宣長







そめはね門へ船よせものぐる
やうとて己よ其用をさすと
みよこまろとお秀をとどかと
あつて大年かでせも
あるよーとせて
大きかとどろ
まきえ上流をき
をひてえり
考らと退治の
さきと斗あう四月
廿九日早夜定一
御日未ぬよれ
るとえて下船
ちうとすその一
スルノアやの三事われ
ニ万ヌチ余繩又一ひよ
大あふるの厚わす二万
余繩とてをくよど
るをひてえり
がうのえ辺よきのど
がモおらんのとくと
をあく
をあ西二里ク君よき
すうねれね平あんよき
りてさとえぬ不よき
管秀をとまとめて
はとよせちや矢あさせの
あ矢をひくたる

方よ下つけのま
の佐人发承秀を
使若を立てやうへ
南時ね門よやいへ
列小舟ひくらまく
く共あんとくまく
めれかまくの立を
いへばうのひまよまくへ要
くわくくいへあく歯玉
みほをうされあらばぐ
れ共すう欲いをうの
かくとくとくとくとく
とほんじうふかわくらまく
貞盛足才大至ふよりらば
冰川大昭神の本少思ひ合せ
とくく秀とのアミタラム
伝そべーとゆくて下つけのま
打之まよち経よえ登あまこ
同えーておらをせめうだと
せくうれいあもへや小みそすい
うち実列武元さくらのあふの
子孺ニ子孺五百強三百強我もく
もせあつまく一経と四月廿八日
のちかくとくふハ取合二万三千
余強下つけのま中れ本の下年の
げをも年分のやうにふもかうり





使とえみそれで
とそくめいとおゆ
してその日よりそく
らよ下りてから後
ふへておをさづく
それへ信軍皆ひそく
のうしゆがりとお
さうよされとそろ
かく失ふぬか風ふき
されば信隊もよきひで夜付
へうこくへつきぐらわのひ
わのえとさゑよまでてうど
うちとぞと一ぱりりえ登あら
見と見てぞくや款だくすの
考かえうふこととくのをと合で
とくことあ、一ひととよし
うれとぞとととととととと
ゆくえと先ひ十方みりれて唐
からうえを坐ふとくさよせあひ入
ね小そくとくとゆゆひとのりの一人も
うれすもすわらへつづすきへ
りうそくちぢりやねうとせんとせ
じびーえきをとくらしてうそくとうこ
うそくはあてうそくとくらして信隊を
さくべおとせくべとおろの要事田原
千時千時をせんひづくら



とあ日ひ矢軍
ちうくした軍
もあくうなうあく
さく二日の未の
年めくと百勝三面
勝れとそろてわ
とくふへ勢りく今
金めく松木のをく
よあの方の人ととも
あせんちかく是
をうきえあほくう
かて出もみつくと
金とこうとまれる
陣引けが「陣へくら
島ももつせすずせあ
とくひ一そくふたを
どあもとひくらされ
せす今日もスヽとくら
くうしなうも程よあ
ほの去たんをとげす
わくをむととくら
をくよう風
とびくとくとく
目めの三日のま
天とあ森より軍

同
千春
田原ア
千時



卷之四



三十五



卷之三



卷之三

三十一



あつとぞ竹山のうるわす
ちけ登の方へ向ひ二万余堵
被かへて十三日よおる引
りとす下うちね門
ゆふやうりやく缺よ
うとうとくとすを
えと自在あるま
とそぞう三三百人を止
せがり火とせその
夜の中ふちづくと
隊を引て清ひろ山よ
みうひごてたんゆう
ぐに大石大木つそ
正のひねかて引
うくわせの七千余
堵よ二千堵と云
ゆきば十二百貞
登秀吉の
あせのをと
そやてひ
おせに款一人
もあらうう人と
をらせてゆのゆ
をとつひやまひ
山へとあらわせ



去役子持門へ軍の
ゆうさといふとちふ
而ふ金井お平ひく
みをあてうへい
くさの次方をう
ろめそゆん
みそうい
かじかと
大より八
万余堵を
二万余堵と
あがりのうえ
むうせら万余堵を
むうせら万余堵を
今やよるとねうけ
りくとせせら万余堵を
余堵と九日ふうつの
まをみて下さくよせらる
ゆきれとくとせらる
とくとくとせらる
の兵を休め日ゆうぶせらる
と双方陣を引ておちるゆふ
十丁よしひみえりとせらる



七



卷之三



とべをりつて
さくふべつとも
えく歎ひをす
付くる去り
人もうう
つゞぞまを
きすにうち
とれと大き
あひて下れ
のふさんども山
乃もう女の穿
みまづれうで
ゆるすりせいか
ともよつまうる
よ振うちの大ね
持ち奥世利去
甲とんきくひて
东西へ行ひうる
小(ミ)ろてまう
タれがゆ方の去
やせざみてハ
方ふりてよ
けうる歎め
をくらざれ
八十餘丁りも
ぞん放軍の勢
一方ほうもくふ
てはどうも



おもろに仕合
ふゆひの夕ひ一ヶ月のつづり
うだるをういしてすこし
のえさんふそびそその夜
の子のうくまでおひうふ山
のあふるよろ已小大
よのうせんゆれ法
大ねかわまくわざと
とこらへりれへ軍使
をみての日の軍の
あつててうしと合
ぬゑ刻上陸の勢の
中うちくつまゆうの
去二百八十倍をと
むつておは吉はよあん
内させ千二枚のあら
きそらう小南のそくは
あひ上りなはまうの
のうりとれ西どうれ
を大ねまあつて
をもあくでへこそ
がきやうもな
えきと二而
五十人の去とも
おあはふくら
ニシくつとゆ
おなまと
さくとこく
てた



正

